

## 1 主 題 差別のない社会をつくろう

## 2 教材名 「百日かせぎ」(ほほえみ)

## 3 主題設定の理由

- 本学級の児童30名は、1年生の掃除の手伝いを進んで行ったり、委員会やクラブ活動において積極的に発言したりしながら、最高学年としての自覚や責任について考え、力を伸ばしてきている。学級の係活動でも、友だち同士で創意工夫しながらより良い活動をめざして、仲良く行動できている。しかし、6年間の学校生活の中で少しずつ根付いてしまった友だちに対する思い込みや、固定化された友人関係から抜け出せず、理不尽な場面を見かけたとしても、「おかしいよ」と声を上げる児童は少ない。また、部落差別と同じく理不尽な差別について、社会科「江戸時代の身分制と人々の暮らし」や道徳科「つむじ令」で学習した際には、根深く残る差別に対してそれを解消することの難しさを実感していた。解決法について考えた際には、「差別したら罰を受ける」や「解消は難しいので後世に託す」などの意見が見られたところから、どこか自分事としてとらえきれていない実態が見られる。
- 本教材は、長い冬の間、いわれなき差別によって「百日かせぎ」に行くことができず、差別に苦しむA村の人々がその差別に立ち向かい、差別解消に向けて努力する姿が描かれた教材である。村人たちは差別解消に向けて、粘り強く行動し、その結果、杜氏の大木さんの心を動かし参加を認めてもらう。そして、村人の期待を一身に背負った栄治が厳しい仕事とそれ以上の差別に苦しみながらも懸命に働く姿を見せる。差別に対する大木さんのことばによって青年たちの心は変容し、栄治と共に力を合わせて日本一の酒造りに励むようになる。その後、百日かせぎを終えて村に帰る栄治を村人たちが温かく迎える。みんなが力を合わせて差別を解消していく姿を通して、差別や不合理に出合ったときに主体的に解決しようとする意欲を育てるのに適した教材である。
- 指導にあたっては、導入で「つむじ令」の学習で考えた差別解消の方法についてふり返らせ、本時においてより良い解決方法がないかを考えるための意欲付けとする。本教材ではまず、A村の人々が百日かせぎにむけて懸命に行動する様子を通して、なんとか差別をなくしたいという熱意をとらえさせるとともに、差別解消の難しさについて実感させる。次に、大木さんのことばに注目させ、見て見ぬふりをすることも差別を助長させていることに気付かせる。さらに、百日かせぎに出てからの栄治の努力にふれ、A村の人々の思いを背負いながら孤独に仕事をする姿に共感させる。中心発問では、日本一のお酒を造るのに一番貢献したのは誰かについて一人ひとりの考えをもたせ、話し合いをすることで差別解消には様々な立場の人の働きかけが大切であることに気付かせる。話し合いの際には、自分の立場を視覚化できるよう3色のプレートを使い、考えが変化した時はプレートの色を変えることで、意見の変化や強い思いに注目しながら話し合いができるようにする。最後にもう一度差別解消について考えることで、「誰かが解決してくれる」ではなく、「自分も解決のためにできる何かがある」という考えをもち、差別問題に向き合えるようにしていきたい。

## 4 ねらい C 公正, 公平, 社会正義

- ・ 栄治の差別に立ち向かおうとする気持ちと、大木さんや青年の差別をなくし平等に接しようとする気持ちについて考えることを通して、主体的に差別のない明るい社会をつくろうとする道徳的意欲を育てる。
- ・ 友だちとの意見交流を通して、多様な考えに気づき、仲間と共に伸びていこうとする態度を育てる。

## 5 人権教育の観点 2(2)ア 差別と人権問題についての学習

不合理な差別・偏見に対して、正しく理解し行動することは大切である。しかし、差別を自分のこととしてとらえることは難しい。そこで、本授業では栄治の努力とその周囲の変化に注目することで、不合理や差別を見過さず主体的に行動しようとする意欲を育てる。

7 指導過程

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 (○)
導入	1 差別解消のために何ができるか、前回の学習を振り返る。	<p>長年続いてきた差別を解決するためにはどうすればいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 差別しないルールを作る。</li> <li>・ 今すぐに解決するのは難しい。</li> </ul>	○ 「つむじ令」の学習の振り返りを書画カメラに映し、差別解消の難しさを実感させる。
展開	<p>2 教材を読んで話し合う。</p> <p>① 百日かせぎに行けないA村について考える。</p> <p>② 「何もしないのは差別しているのと同じ」について考える。</p> <p>③ 日本一の酒造りに最も大きな役割を担った人物について考える。</p>	<p>A村が百日かせぎに行けないのは、なぜですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昔から差別されているから。</li> <li>・ 部落差別されているから。</li> <li>・ 仕事をちゃんとしないとされているから。</li> </ul> <p>「何もしないのは、差別しているのと同じ」とは、どういうことでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見ているだけでは解決しない。</li> <li>・ 何かしないと差別は解決しない。</li> </ul> <p>日本一のお酒を造るのに、一番貢献した人は誰でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大木さんのことばでみんなが変わった。</li> <li>・ 栄治が差別にも負けず、がんばり続けた。</li> <li>・ 声をかけた青年から、周りの青年たちの雰囲気が変わった。</li> </ul>	<p>○ 差別されているA村について、どのように思うかを問うことで、差別の理不尽さを感じさせる。</p> <p>○ 関わろうとしない周りの人たちについて考えさせることで、差別の解決の難しさを実感させる。</p> <p>○ 大木さんやA村の人々が差別の解決のためにとった行動を振り返り、見て見ぬふりではなく具体的に行動に移すことの大切さに気付かせる。</p> <p>○ 栄治のがんばりにふれることで、百日かせぎにおいてつらい思いをしながらもA村の人々の思いを背負って努力していることに気付かせる。</p> <p>○ 考えをワークシートに書き、交流することで、話し合いにおいて意見が言いやすいようにする。</p> <p>○ 立場を明確にして話し合わせることで、多様な意見にふれ、自他の良さに気付くようにする。</p> <p>○ 自分の考えを色別のプレートで表現させることで、考えの変化や強い思いに注目して話し合いをし、お互いに高め合えるようにする。</p>
終末	3 本時の振り返りをする。	<p>差別を解決するために、何ができると考えましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 解決しようと、何か行動することが大事。</li> <li>・ ルールづくりだけでなく、一人ひとりが行動に移すことが大切。</li> <li>・ 間違っていると思うことには、間違っているとと言えるようになることが大切。</li> </ul>	<p>○ 前回考えた時の「罰則を作る」という考えに対してどう思うかを問うことで、法律やきまりに頼るのではなく、解決のために自分が行動することの大切さに気付かせる。</p> <p>○ しっかりと時間をとり、考えを発表させることで、価値についての様々な考えにふれられるようにする。</p>